

# 恐怖の体験記 台風21号

飯岡 山田ミス江 さん  
(山口)



▲山田さんの自宅前には、濁流によって大量の土砂と流木が積み上げられた。

あの日の午後4時半くらいだっただろうか。大雨による自宅前の川の様子が、今までとは違う動きをみせていました。橋げたで近所の人と必死で、流木を取り除く作業をしていた主人が言う「雨の量にしては、水かさが増さない」。そのうちに川上から大木がジャンプしながら主人たちを直撃しそうになり、主人たちは慌てて高い所に移りました。

この間、わずか5分くらいのことでした。おそらく伐採された大木がいったん上流で山積み状態となり、それが鉄砲水となって、私たちが住む下流に流れ込んだものと思われまます。

一方、私は自宅で主人の指示通り、必死でリュックに大事な物を詰める作業をしていました。それと同時に、消防署に電話をしました。電話は途切れながらも一度つながり「土のう」の話をしたが、すぐには対応しにくいとのこと。これでは話にならないと思った私は、次に自治会長に電話をするが、つながらない。その時、一斉放送が自治会長の声で入ったとたん、突然の停電で「ぶつり」と切れました。後で聞いたことですが、自治会長は危険を感じて、みんなに避難するように呼びかけていたそうです。

外の様子を見ようと玄関に出てみると水が足元まで来ていました。もう外には出られないと思い、急いで2階にかけ上がった瞬間、「ドテッ」と鈍い音がしました。下を見ると、階段の3段目までが黒い土砂に覆われていました。この行動がもう少し遅かったら土砂に埋もれていたと思うと「ゾッ」としました。



▲山田さんの自宅前には長谷川が流れる。普段は雨が降っても少量の水しか流れない川だが、当時は数分間で、ごう音と共に水と流木が押し寄せてきた。写真左は山田さん。

2階の窓越しに見える直径50センチから1メートルの大木の山積みは、1階の屋根根までの高さに積まれ、そのまわり一帯は、ごう音と共に1階屋根部分まで迫る濁流で埋めつくされていました。

2階に一人取り残された私は、雨にぬれた体と恐怖とで「ブルブル」と震え、のどもカラカラになり、体の限界を感じました。1階では窓ガラスの割れる、さまざまの破壊の様子があがえ、生きた心地がせず、ただひたすら「家よ、頑張つて流されないで」と祈るだけでした。

そんな中、向かいのご夫婦が窓越しに大声で私を励ましてくれ、離ればなれになった主人の無事も伝えてくれて、唯一私の心の支えとなりました。

向かいのご主人が私を助けようとしてくれますが、ロープが届かない。いら立

つ中、どうにもできない自然の力の恐ろしさを突きつけられた思いがしました。しだいに雨がやんでくれたので、近くまで来ていた消防隊を向かいのご主人が誘導してくれ、ロープ伝いに流木の上を渡ってレスキューに助けられました。

「生きていたんだ」。ただ呆然とした私がいきました。後で聞くと、主人や子どもが私を助けようと家に近づこうとしたが、腰までの濁流で押しもどされ、家に行かれない状態だったそうで、私と同様のつらい思いをしたことを知りました。

被害の差はあるものの、山口地区約100戸が被災したことを聞きました。

ある人は避難しようと玄関まで出ていると、わずか数分間に鉄砲水が目前に現れ、必死に外壁にしがみついて、全身がぬれぬれ状態で耐えたそうです。

またある人は、急に水が天井まで来て全身つかつたが、隣のご主人が台所の窓から引っ張り出してくれ、命からがらだったことを聞きました。

一生の間に経験するかもしれないかの出来事に遭遇しましたが、近所の人たちとの連帯感や励まし合いなど人の温かさをつくづく感じ、次の日から泥まみれの大変な作業にも多数の人の助けをいただき、徐々にではありますが、着実に復旧に向けて動き始めています。

何もかも無くし、復旧にはまだまだ時間ばかりですが、前向きにがんばっていきましょう。この場を借りて、多くの皆様にお礼を申し上げます。本当にありがとうございます。